

夕張市庁舎建設基本計画（案）に対する意見と市の考え方

令和6年10月28日（月）から令和6年11月8日（金）まで行われました、夕張市庁舎建設基本計画（案）に対する意見公募（パブリックコメント）の結果と市の考え方について、以下のとおりお知らせします。

意見については、趣旨を変えないよう、原文のまま掲載しております。

本文中の箇所	意見	回答
<p>P18 3.まちづくりの中核機能</p>	<p>P18に記載されている事項について考えたとき本当に「清水沢地区」が妥当なのか？</p> <p>「基本構想」および「まちづくりマスタープラン」を含め新庁舎を整備する上で、市の中心地の考え方についてお伺いしたい。そもそも「本庁地区」か「清水沢地区」ありきで検討されているように思われる。</p> <p>「まちづくりマスタープラン」の地区別の人口減少データを見れば、炭鉱の開発・閉山で住民の居住区域の移り変わりの変遷を確認できます。丁未・高松に炭鉱があった時代に本庁地区が中心地となり、最後の炭鉱があった地区が現在も多くの住民が暮らす清水沢地区です。</p> <p>持続可能なまちづくりを考えたときに今後も継続して運用可能な公共交通を中心とした整備計画が必要なのではないのでしょうか。</p> <p>すでに南支所としても機能している既存の拠点複合施設「りすた」を有効活用し周辺整備は計画の通り必要と考えますが、庁舎移転については、新しい発想で新夕張駅周辺に新庁舎を移転し国道274号、高速インター、JRの活用で市外へのアクセスを維持しつつ、高齢化の進むまちで市内移動のみを考えるライドシェアやデマンド交通に特化することは考えられないのでしょうか。</p> <p>10年後に民間のバス事業者が存続しているのでしょうか？ 10年後に運転免許を持った市民は何人いるのでしょうか？</p>	<p>清水沢地区の妥当性と中心地の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夕張市まちづくりマスタープランなどの計画では、人口減少に対応しながらまちのコンパクト化を進め、各拠点地区（若菜・清水沢・紅葉山）の特性を活かした生活利便性の高い拠点を形成し、持続可能なまちづくりを目指しています。 ● その中で、清水沢地区は、市営住宅の整備や民間賃貸住宅の建設促進による居住環境の充実、拠点複合施設「りすた」や認定こども園の設置など、暮らしやすい環境づくりが進められてきました。 ● 市庁舎をこの地区に設置することは、市民の生活や安全確保に直結する重要な機能を加えることになり、生活利便性の高い拠点形成において大きな役割を果たすものと考えています。 ● 一方で、新夕張駅や高速道路等が所在する紅葉山地区は、夕張市の玄関口として、市外からのアクセス性を活かして交流人口の拡大を目指し、まちの魅力を発信する拠点として位置づけられています。 ● ご指摘いただいた市外へのアクセス維持や市内移動手段の充実、地域経済の活性化については、新庁舎を設置する清水沢地区と各拠点地区との連携強化を図り、さらなる利便性の向上に向けて、新庁舎整備と合わせて検討を進めてまいります。

市外へのアクセスが不便になった今、市民が多く居住する地区からの人口減少が止まらないのはなぜか

そして道道3号線から札幌方面のアクセスを考えるとデマンド交通の維持が絶対条件になってきます。高齢化が進み現役世代が増加しないかで自家用車でのライドシェアも難しいと考えられます。

担い手育成の面からも全国的な運転手不足が数年で解決されることは不可能だと考えます。

一方で、紅葉山地区も人口減少はしているものの減少率は他地区と比較した場合、安定しているだけでなく国道、高速インター、JR、食料品店、コンビニもあり清水沢地区に劣らない利便性を提供できる可能性があります。

住民が多く暮らす居住地域からのライドシェアやデマンド交通もJRにつなぐことで運転者の負担も軽減できると考えられ、市内の公共交通のあり方についても利用者が増えるのではないかと考えます。

清水沢地区に庁舎移転後50年後に、今のまちづくりマスタープランの通りのまちになっているでしょうか？

炭鉱のまちとして存続し、本庁地区に庁舎のあったこの50年間、過去の予測の通りにまちづくりは進んでいるのでしょうか？

地図上の中心地ではなく、経済活動の中心地としての考え方も必要ではないでしょうか。

50年後に「メロンのまち」として存続し、地域住民の暮らしを守るだけでなく、市外から人を呼ぶ、北海道を、日本を代表する夕張が世界に誇る「夕張メロン」を中心に交流人口を増やし地域経済を活性化させる新庁舎になる計画になることを願っています。

本文中の箇所	意見	回答
P8 1. 新庁舎の役割 P9 2. 整備基本方針 P15 1. 新庁舎の基本機能 (6) 議会 P18 3. まちづくりの中核機能	<p>新庁舎にグランドピアノの設置を要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一希望 ; 議場 (議会関連諸室) ・ 第二希望 ; 待合ロビー <p>議会関連の諸室を「利用に合わせて広さを柔軟に調整」かつ「防音・音響の対策を検討」するのであれば、小さなコンサートホールを兼ねることも可能 と考える。「賑わい」「市民活動の促進」「コミュニティの活性化」の一翼を担うことによって、議会運営への理解・関心が高まることで「開かれた議会」が期待できる。待合ロビーについては、多数の観客を収容するには厳しいと思われるが、いわゆる「駅ピアノ」「街角ピアノ」として設置することで若年層の来庁も期待でき、行政への理解・関心および職員と市民との交流が深まるきっかけも期待できる。</p>	<p>グランドピアノ設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新庁舎は、災害対応を行う拠点、行政サービスを提供する中心施設として重要な役割を果たすための施設整備が求められます。 ● 一方で、いただいたご意見は、まちの活気を生み出し、市民交流を促進する要素ではありますが、隣接する拠点複合施設「りすた」に同様の機能を有しており、実施可能な状況であると理解しております。 ● 新庁舎では、庁舎の役割を果たしながら「りすた」との機能をすみ分け、効果的に連携が図れるよう各諸室・スペースの活用方法について検討してまいります。
P16 2. 新庁舎の新たな機能 P18 3. まちづくりの中核機能	<p>新庁舎周辺の排水管理について丁寧な事前調査・検討を要望する。土砂災害多発の昨今、対策を根本から見直すとして注目されている「土中環境」概念を考慮した建設計画を期待する。</p> <p>去る8月31日の大雨による建設予定地周辺の道路冠水および拠点複合施設「りすた」への浸水が記憶に新しい。近隣の住民宅も床下浸水となったそうだが、りすた建設によって雨水の流れる方向が変わったと感じているとのこと。今回の大雨は想定をはるかに超えていたと承知しているが、「建物の長寿命化」「地域環境との調和」を図るためにも周辺の排水溝の管理はもちろん、予定地の土質 (通気浸透水脈) 調査などを入念に行うべきと考える</p>	<p>新庁舎周辺の排水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新庁舎整備における排水計画については、敷地内の適切な排水管理が行えるよう地盤・土質の特性や周辺地域の状況を把握しながら検討を進めてまいります。 ● なお、新庁舎周辺地域における排水対策については、関係機関等とも情報共有を図りながら、対応を検討してまいります。

本文中の箇所	意見	回答
<p>P18 3. まちづくりの中核機能</p>	<p>市庁舎に食堂を作してほしい</p> <p>りすた・新市庁舎がまちの中心施設になり、一番にぎわいが生まれる場所になってほしいと考えるが、その場合、食堂やカフェといった、飲食を伴いながらゆっくりおしゃべりして交流を深める場が必要不可欠だと思う。訪れた人々も気軽に寄って休憩できたり、また、そこで働く人々にも食事を提供することができる。</p> <p>現在周辺にもそのような施設が皆無であるので、ぜひ実現してほしい。</p>	<p>食堂の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食堂の設置や飲食機能は、その提供を行う持続性や利用される方の利便性の観点から検討が必要であります。 ● 一方で、いただいたご意見のとおり、周辺地域に飲食機能が不足している状況や市民ニーズも理解しております。 ● 飲食機能を導入することでの発展性などを踏まえ、新庁舎への導入のほか周辺への誘致・誘導なども含め、検討してまいります。